

型番(発売当時の価格)	発売開始時期	入出力													フォーマット				カセット				機能						i-LINK							
		映像						音声			その他				DVSP	DVLP	DVCAM	DVCPRO	スモールサイズ(ミニ)	ラージサイズ(フルサイズ)	Mサイズ(DVCPROMサイズ)	DVメディアコンバーター機能	VITC対応	i-LINK経由TTC付きダビング	TTCプリセット	外部TTC同期	スロー再生	プリリット編集		DVC駆動対応						
コンポジット(I/O)	S(I/O)	コンポーネント(I/O)	SDI(I/O)	SDTI/QSDI(I/O)	モニター出力(コンポジット/SDI)	RCAレン	XLR3P(I/O)	モニター出力(XLR/RCA)	AES/EBCU	タイムコード	i-LINK(IEEE1394)(Aなし/A付)	i-LINK(IEEE1394)A/C/SBポート対応	RS-422A(6pin)リモート																							
ソニー DSR-DU1 (280,000円)	2002年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4P	A/S	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	Li-ion(L)	i-LINKインターフェイスのみを持つHDDレコーダー。内蔵HDDは3時間相当。i-LINKをAVCプロトコルモードで動作させればDV端子として、SBPプロトコルモードで動作させればPCの外付けHDDとして認識し、記録した映像をファイルとして扱うことができる。ファイルはPremiere6.5以降で取扱可能。AVCプロトコルモードで動作させればデッキとして振る舞うため、DVに対応のノンリニアで利用可能。メディアコンバーターとセットでデッキのように扱うことができる。		
ソニー DSR-V10 (315,000円)	1998年	1	1	-	-	-	2	-	-	-	4P	A	-																				Li-ion(L)	DVCAMウォークマン。民生モデルのGV-D900との違いはDVCAM記録で、DVLP非対応であること、デュプリケート機能とオートリビートの有無。		
ソニー DSR-11 (262,500円)	2000年	1/1	1/1	-	-	-	2/2	-	-	-	4P	A	-																					DCプラグ	ノンリニア編集用フィーダーとしての最低限の機能に絞ったモデル。タイムコードのプリセット機能はないため、キャプチャ用か、タイムコード基準でフォーマットをする必要のない編集作業に利用可能。専用編集コントローラDSRM-E1と他のLANC対応DVカメラ等を接続することで、1:1のリニア編集システムを構築可能。アナログ映像・音声入出力は兼用で再生時に自動的に出力に切り替わる仕組みなので、用途によっては注意が必要。	
ソニー DSR-20 (400,000円)	1998年	1/1	1/1	-	-	-	2/2	-	0/2	-	4P	A	-																				4P	DSR-11に対して、サイズ以外ではモニター出力が独立し、オンスクリーンの有無が別系統で得られること、前面のタイムコード表示がある点がアドバンテージ。デュプリケート機能を持っているため、素材や完パケのサブマスターなどを簡単に作ることができ、その場合の再生機側は保証対象外だが民生機でも使うことができる。		
ソニー DSR-25 (367,500円)	2002年	1/1	1/1	-	-	-	2/2	-	-	-	4P	A	-																					-	DSR-20の後継に相当するモデル。モニターを兼ねた液晶表示パネルを内蔵。タイムコードのプリセットが可能になったため、ノンリニア編集の場合にはこれ1台でタイムコードでフォーマットされた完パケを仕上げる事ができる。	
ソニー DSR-30 (504,000円)	1996年	2/2	2/2	-	-	-	2x2/2x2	-	-	-	4P	A	-																					-	DVCAMシリーズで最初に発売されたVTR。内蔵でマルチイベントの編集機能を持っており、LANC端子経由で再生機をコントロールしての1:1リニア編集が可能。	
ソニー DSR-40 (525,000円)	1999年	1/1	1/1	0/1	-	-	2/0	0/2	0/2	-	4P	A	SP/SR																					-	DSR-20相当の機能にRS-422Aリモートによるリニア編集の簡易プレーヤーの機能を持たせたモデル。簡易プレーヤーとしての動作にとどまるため、フレーム精度±0フレームとはならないが、編集機側の調整とあわせて、現実的に±1フレーム程度の制御精度は実現可能。コンポーネント端子を装備しているため、アナログ系のスイッチャーでも高画質で接続可能。	
ソニー DSR-45/45A (525,000円)◎	2002年/2005年	1/1	1/1	1/1	-	-	4/0	0/4	0/1	-	IO	4P	A	SP/SR																				-	RS-422Aリモートによる制御が簡易プレーヤーもしくはアセンブルレコーダーとしての動作に留まるが、入出力共にコンポーネント端子を装備し、従来ベータカム等で1:1のリニア編集システムを組んでいた用途などの置き換えに使える。モニターとLTC入出力内蔵、フルカセット、DVモード録画対応のため、長時間のイベント等のマルチカメラのバラ回し撮影にもコンパクトに対応できるのが魅力。	
ソニー DSR-50 (682,500円)◎	2000年	1/1	1/1	1(26P)	-	-	0/4	4/0	0/1	-	IO	6P	A	-																				Vマウント/4P	DVCAMシリーズで唯一のポータブルVTR。Vマウントバッテリーをボディ内に格納できる。コンポーネント対応26Pカメラ端子を備えているため、業務用から放送用カメラまで幅広く接続可能。i-LINKも備えているため、撮影から編集まで1台でこなすことができる。	
ソニー DSR-60 (700,000円)	1996年	1/1	0/1	0/1	(0/1)	(0/1)	1/0	-/0	-/4	0/1	-	(0)	-	A	EP																			-	精度や制御機能の制約なく使用可能な、リニア編集に完全対応のエディティングプレーヤー。SDI出力オプションが装備されれば、DVやDVCAM素材の編集に関してはDSR-1600と概ね同等に使うことができる。コンポーネント出力のみでも、DFS-300や500などの安価な中古スイッチャーと組み合わせれば、安価にシステムアップ可能。	
ソニー DSR-70/70A (1,300,000円)	1999年	1/1	1/1	(I/O)	(1/2)	-	0/0	2/2	0/1	-	IO	(6P)	A	EP/ER																					Vマウント/4P	単体でポータブルVTRのように使えるほか、編集機能内蔵の編集レコーダーとして使用可能。音声インサートは4chモード時は2ch単位。ドッキングキットBKNW-225を使用することで、DSR-70もしくはベータカムSXのDNW-20番台のモデルとの連結で一体化が可能。入出力オプションはいずれか1つのみ装着可能で、コンポーネント入出力、コンポジット2カメスイッチャー、SDI入出力の選択。コンポーネントは同じ端子を入力・出力で切替使用となる。
ソニー DSR-80 (1,300,000円)	1996年	1/1	1/1	1/1	(1/1)	1/1	1/0	0/0	4/4	0/1	2/2	(IO)	-	A	EP/ER																			-	精度や制御機能の制約なく使用可能な、リニア編集に完全対応のエディティングレコーダー。SDI入出力オプションが装備されれば、DVやDVCAM素材の編集に関してはDSR-1800と概ね同等に使うことができる。	
ソニー DSR-85/85A (1,800,000円)	1996年	1/1	1/1	1/1	(1/1)	1/1	1/0	0/0	4/4	0/1	2/2	(IO)	-	A	EP/ER																			-	DSR-80に対し、SDTI端子経由での4倍速映像伝送に対応したモデル。対応はES-7というノンリニア編集システムのみのため、実用上はDSR-80と考えると差し支えない。DSR-85が2台あれば、QSDI経由の4倍速ダビングも可能。	

◎は現行モデル SP/SR...簡易プレーヤー/簡易レコーダー EP/ER...編集プレーヤー/編集レコーダー P...再生のみ RP...録再可能 ※2004年以前発売で現行モデルではない製品の価格は、税別表記。 表組次ページに続く

型番 発売当時の価格	発売開始時期	入出力													フォーマット				カセット				機能							コメント				
		映像						音声			その他				DVSP	DVLP	DVCAM	DVCPRO	ミニサイズ(ミニ)	ラージサイズ(フルサイズ)	Mサイズ(DVCPROMサイズ)	DVメディアアップコンバーター機能	VTRC対応	i-LINK経由TTC付きタイプ	TTCプリセット	外部LTC同期	スロー再生	プリロード編集	DC駆動対応					
		コンポジット(I/O)	S(I/O)	コンポジット(I/O)	SDI(I/O)	SDTI/QSDI(I/O)	モニター出力(コンポジット/SDI)	RCAレン	XLR3P(I/O)	モニター出力(XLR/RCA)	AES/EBUC	タイムコード	i-LINK(IEEE1394)(Aなし/A付)	A/C/SB(IEEE1394)																	RS-422A(6pin)リモート			
ソニー DSR-DR1000/ 1000A (840,000円)◎	2002年/ 2005年	1/1	1/1	1/1	1/1	-	C	0/0	4/4	0/1	2/2	IO	6P	A/S	EP/SR	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	据置型HDDレコーダー。イーサネットを装備しており、最高で実時間の3倍程度の時間でLANやインターネット経由での映像の遠隔地転送が可能。内蔵で簡易カット編集機能も持つ。容量はDR1000で6時間、DR1000Aで12時間。録画と再生が同時に可能なため、スイッチャー出力を録画しながら、同時に素材出しするなどのイベント用途や、録画中の映像の編集も可能なため、スポーツやブライダルでの合同での追っかけ編集なども可能。
ソニー DSR-1500/1500A (787,000円)◎	2000年/ 2002年	(1)/2	(1)/1	(1)/1	(1)/2	1/1	1/0	0/0	(2)/2	0/1	(2)/2	IO	(6P)/6P	A	EP/ER	(Aのみ)P	-	RP	P	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	オーディオインサートが4chモード時に2ch単位になること以外はリニア編集のエディティングレコーダーとして利用可能。アナログ入出力はそれぞれコンポジットとSとコンポジットの切替方式で同時使用はできない。本体サイズの制約のため端子には限りがあるが、機能としてはフルサイズ編集レコーダー並みの機能がある。このクラスでDVモードでの記録も可能なことが魅力。	
ソニー DSR-1600/1600A (850,000円)	2000年/ 2005年	-/2	-/1	-/1	-/2	-/1	1/0	-/0	-/4	0/1	(0)/2	○	(6P)/6P	A	EP	P	-	P	P	○	○	○	-	○	○	-	-	±0.5	-	-	-	DSR-60の後継となる編集プレーヤー。1600Aはi.LINKが標準装備。オプションの搭載でHD-SDIへのアップコンバーターを内蔵できる。		
ソニー DSR-1800/1800A (1,344,000円)◎	2000年/ 2005年	IO	1/1	1/1	1/2	1/1	CS	0/0	4/4	0/1	(2)/2	IO	(6P)/6P	A	EP/ER	P	-	RP	P	○	○	○	-	○	○	○	○	±0.5	-	-	-	DSR-80の後継となる編集レコーダー。1800Aはi.LINKが標準装備。オプションの搭載でHD-SDIへのアップコンバーターを内蔵できる。音声遅延のない4ch音声の独立インサートに対応。		
ソニー DSR-2000/2000A (1,942,500円)◎	1996年/ 2005年	IO	1/1	1/1	1/2	1/1	1/1	0/0	4/4	0/1	2/2	IO	(6P)/6P	A	EP/ER	P	P	RP	P	○	○	○	-	○	○	○	○	±1.0	○	-	-	最上位編集レコーダー。放送用VTRと同等の機能をDVCAMフォーマットで実現。2000Aではi.LINK標準装備。基本的に入出力フル装備。HD-SDIへのアップコンバーターも装着可能。プリロード編集で、再生機が1台でもリニア編集でA/Bロール編集が可能。DVLPやDVCPROなど、DV圧縮系フォーマット全ての再生に対応。ビデオヘッドが高信頼2回転読みのため、ドロップアウトに強く、他機で救済できなかったテープが問題なく再生可能なことも。		
ビクター BR-DV600 (400,000円)	1999年	1/1	1/1	1/1	-	-	1/0	2/2	-	0/1	-	○	4P	A	SP/SR	RP	-	-	-	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	4P	ミニDV専用であるほかはDSR-40に相当する位置づけのモデル。LTC出力も備えているため、放送用VTRへの立ち上げ等にもタイムコードを容易に引き継げる。ノンリニア編集後の納品用テープ等への完パケコピーなどにリズナブルに対応できる。RS-422Aリモートで、リニア編集の簡易プレーヤーとしても使用可能。	
ビクター BR-DV3000 (241,500円)◎	2002年	1/1	1/1	-	-	-	-	2/2	-	-	-	-	4P	A	EP/SR	RP	-	P	-	○	○	-	○	-	○	○	-	±1/3	-	-	-	DCプラグ	ミニDV専用であるほかはDSR-25に相当する位置づけのモデル。ただし、RS-422Aリモートコントロールを備えているため、リニア編集のプレーヤーとして使用可能。入出力がS端子までと限定されているが、例えばイベント送出映像など、シビアな画質よりも作業性を重視した用途ではリズナブルに活用できる。	
ビクター BR-DV6000 (525,000円)	2003年	1/1	1/1	1/1	-	-	1/0	2/2	(2)	0/1	-	IO	4P	A	EP/ER	RP	-	P	-	○	○	-	○	-	○	○	○	±1/3	-	-	-	DCプラグ	デスクトップコンパクトレコーダーとして唯一のリニア編集のエディティングレコーダー。リニア編集の再生機、録画機として使用可能。SDI端子こそないが、それ以外は編集レコーダーとしての入出力と端子をフル装備している。オプションのネットワークバックを装着してあれば、リアルタイムエンコーダーとして、ストリーミング配信も可能になる。コンパクトVTRとしては最強の存在。	

◎は現行モデル SP/SR…簡易プレーヤー/簡易レコーダー EP/ER…編集プレーヤー/編集レコーダー P…再生のみ RP…録再可能 ※2004年以前発売で現行モデルではない製品の価格は、税別表記。

今、なぜDVCAMか？——画質重視から量やスピードにシフトしてみると…

急速にHD化が進みつつある業務用ビデオ分野。世代交代の裏側では従来のSD用の機材が中古市場に流れ込んでいる。従来の中古市場は、DV端子を備えない世代、すなわちアナログVTRを中心とした機材が主役だった。しかし現在は急速なHD化を背景にDV系のデジタルVTRが中古市場の主役となりつつある。最近ではHD化の流れの一方で、従来の画質重視型の映像制作ビジネス以外にも、店頭POP用等の小型映像やネット配信用動画、ある程度の画質は必要であるがDVD-R納品の企業VPなども多い。依然として業務の主役はSD納品なのだ。

ハイエンドとアマチュアはHD化しつつあるが、ネット配信などは場合によってはSD以下の解像度さえ当たり前。そこで、現在潤沢かつ安価に市場に流通しているDV世代の業務用VTRを制作に上手に取り込むことを提案したい。DVやHDVノンリニア編集が主体となり、今やリニア編集時代のようにVTRを何台も必要とする事は減ってきた。また、インターフェイスもIEEE1394のみついていればOKという時代になった。その一方で、ノンリニア編集が明らかに得意としない分野がある。例えばマルチカメラ撮影やイベント等のライブ映像などが

その一例。マルチカメラ撮影に関しては確かにそれぞれのカメラで収録し、ノンリニア編集すれば良いのだが、スイッチング収録などに比べると、後編集のノンリニアとなれば、1~2時間ものの編集だけでどんなに短くても最低丸一日は取られてしまう。イベント映像などにおいては、途中でV出し(映像送出)を伴ったり、ライブショットとの切替があるのが当然だから、スイッチャーは必要だし、スイッチングアウトを長時間収録できるVTRも必要になる。確かにカメラ1台とノンリニアでも業務はできるが、例えば企業VPなど修正も多く手離れも悪い制作に比べると、イベント取

録やイベント映像等の制作は、機材量など投資額は増える一方で、業務単価相場も高く、なおかつ手離れも良い。従来はカメラ何台、スイッチャー、VTR等が必要で敷居の高いビジネスだったが、いまやSDと割り切れれば、下手すればパソコン1台ですべて揃えられかねない値段で、中古機材が手に入る。撮影ではなく、編集に振り向けたいのなら、安価に手に入れたDVデッキ数台と、旧世代の余ったPCなどを数台使えば、外付けハードディスクなどを介して、編集前のキャプチャ作業を同時に何本も行なったりすることもできる。例えばカノー

プスのDVStormのように3台同時キャプチャ機能を持つソフトなどが使えたりすれば、同等の構成のPCが2台あれば、6本同時キャプチャで12時間分の映像素材もわずか2時間でキャプチャできる。例えばハンドヘルドカメラによるマルチカメラ撮影も、タイムコード同期なく3台で撮影するより、あえてカメラ数分のデッキを用意して、DV端子で映像をデジタル接続し、タイムコード同期でタイムコードを同期させて、しかもラージテープで撮影すれば、編集も格段に速い。先の同時キャプチャも動員すれば、夜にキャプチャスタートし、朝起きたら3カメラ分が一度のテープチ

ェンジなくすべてキャプチャ済み、という状態にもできる。しかもタイムコードは3カメラで揃っているからタイミングもバッチリ合わせて編集できるというわけだ。このように、機材購入のポイントを画質重視から量やスピードにシフトすれば、中古機材はとてもお買い得な宝の山だ。例えばHDVの機材であれば、すべてのラインナップが揃ったと言い難いが、DV系機材ならポータブルVTR、コンパクトVTR、リニア対応の最高級機まで幅も広い。あらゆるパターンに対応できる機材がSDというだけで充実のラインナップで手に入るわけである。(櫻井雅裕)